

CL-4-II-01	疾患と薬物治療ⅡA	第4学年	前期 必修	1単位
担当者	亀井 淳三			
一般目標 (GIO)	将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、呼吸器・胸部疾患、代謝性疾患、神経・筋の疾患、およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。			
到達目標 (SBOs)	<p>【呼吸器・胸部の疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2. 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3. 以下の疾患について概説できる。 上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌 <p>【代謝性疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、その使用上の注意について説明できる。 2. 脂質異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3. 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 <p>【神経・筋の疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2. 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3. アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4. 以下の疾患について概説できる。 重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆 <p>【総合演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 			
受講心得・準備学習等	薬物治療に用いられる薬物の必要性・合理性を理解することが本科目の目標である。しかし、患者の治療においては必ずしも薬物治療が最適とは限らない。他の治療法との優劣や併用の実際を、模擬体験するつもりで受講してほしい。各回の内容について、講義前に1時間/回程度の予習をしておくことが望ましい。			
事後学習・復習等	講義資料を基に、独自のまとめノートを作成して講義時間ごとの要点をまとめることが望ましい。各回の内容について、1時間/回程度の復習をしておくことが望ましい。			
オフィスアワー	講義日の11時45分から12時45分とする。また、これ以外の時間帯でも在室中いつでも、質問を受け付ける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う	
回	項目	内容	SBOコード
1	呼吸の生理および病態	呼吸の生理およびそれらの病態時の変化を概説する	C14(3)-③-1
2	閉塞性気道疾患	喘息、慢性閉塞性肺疾患の病態およびそれらの治療法	C14(3)-③-2
3	肺炎	肺炎の病態およびそれらの治療法	C14(3)-③-3
4	その他の呼吸器疾患	かぜ症候群やインフルエンザなどの呼吸器疾患の病態およびその治療法	C14(3)-③-3
5	糖尿病	糖尿病の病態およびその治療法	C14(3)-⑤-1
6	糖尿病	糖尿病の病態およびその治療法	C14(3)-⑤-1
7	糖尿病合併症	糖尿病合併症の病態およびその治療法	C14(3)-⑤-1
8	脂質異常症	脂質異常症の病態およびその治療法	C14(3)-⑤-2
9	高尿酸血症・痛風	高尿酸血症・痛風の病態およびその治療法	C14(3)-⑤-3
10	脳血管障害	脳梗塞の病態およびその治療法	C14(3)-⑥-2
11	脳血管障害	脳出血・くも膜下出血の病態およびその治療法	C14(3)-⑥-2
12	アルツハイマー病	アルツハイマー病の病態生理およびその治療薬法	C14(3)-⑥-5
13	その他の神経・筋疾患	脳炎などの神経・筋疾患の病態およびその治療法	C14(3)-⑥-6

成績評価の方法	定期試験結果を最重要視するが、質問等を通じた講義への積極的な参加など受講態度などを加味する。
成績評価の基準	定期試験の得点が60パーセント以上を合格とする。受講態度によって10パーセント以内の範囲で得点を付加することがある。
教科書	亀井淳三・齋藤英胤編「Pharmacotherapy」(ネオメディカル) 浦部晶夫・島田和幸・川合眞一編「今日の治療薬 2017」(南江堂)
参考書など	